

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」
「組合員への助成活動レポート」

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	NPO 法人フォトボイス・プロジェクト
支援対象者・エリア	岩手県宮古市 宮城県仙台市・石巻市・女川市 福島県郡山市・福島県 東京都内・東京近郊
企画開催地	岩手県宮古市 宮城県仙台市・石巻市 福島県郡山市・福島市 東京都内
企画名称	写真を介した語り合いの場づくりと伝承スキルの向上
実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

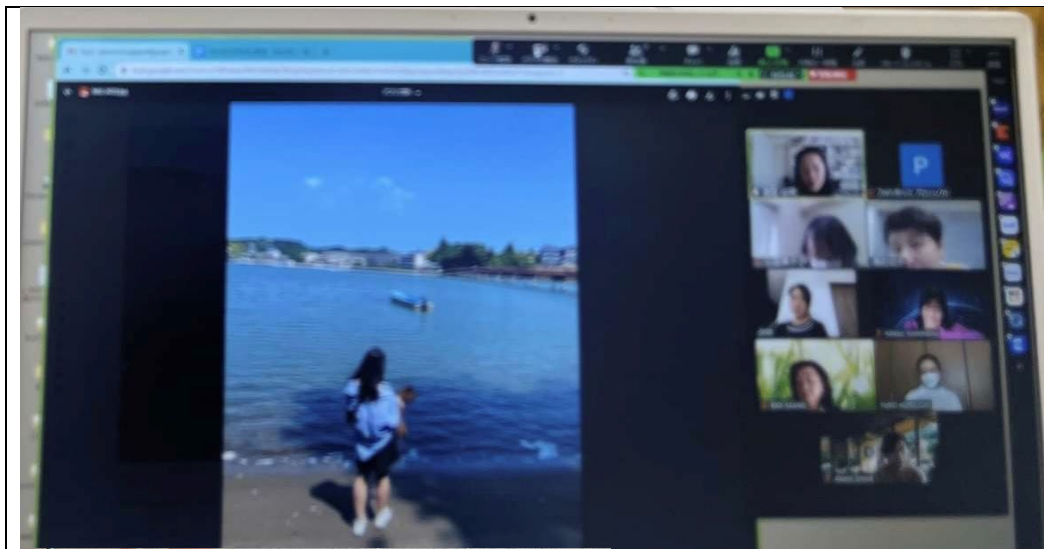
目的：東日本大震災後、被災地の多くの女性たちは通常以上にケア役割を担い、また被災の程度や補償などの違いで、本音を語る場や機会が少ない状態でした。そこで、女性たち自身が、被災後の生活や地域の状況を撮影した写真を持ち寄り、写真を通して語り合うグループを被災地の女性グループと協力して2011年6月から開始しました。現在、被災3県と避難した女性たちが住む東京を含む7か所で実施中です。グループでは、社会に伝えたいメッセージ（声）づくりもします。

傾聴や需要に関して訓練を積んだ当プロジェクトのスタッフがファシリテーターとして、可能な限り安全安心な場になるようグループを進行し、参加者同士の相互理解・援助を促します。写真（Photo）と「声」（Voice）は、被災後の生活や地域の課題を提起するとともに、参加者のグリーフケア（喪失の悲嘆をケア）も担っています。また、被災した女性たちは、話したいこと、伝えたいことを多くもっているにもかかわらず、人前でどのようにそれらを伝えていいのか戸惑います。そのため、伝承スキルの向上をめざして、専門家による文章講座（より伝わりやすい「声」の作り方）やプレゼンテーション・朗読研修も実施することになりました。

内容：各被災地域において、被災した女性たちの「写真を介した語り合いの場づくり」を、岩手県宮古市、宮城県仙台市・石巻市、福島県郡山市・福島県、東京 の6か所にて実施しました。被災者同士が本音で語り合える場は少なくなっているため、貴重な場だと参加メンバーは言っています（原発、放射能のことを話してできるのはココだけだと言っているメンバーもいます）。

文章講座は、メンバーの都合により残念ながら実施できませんでした。プレゼンテーション・朗読研修は3月に大阪府豊中市男女共同参画センターのトークイベントにプレゼンターとして報告する福島市のメンバーが実習を行い、講師（谷岡理香元東海大学社会メディア学科教授）からアドバイスを受け、それまでと見違えるようなプレゼンを行い、研修の効果をメンバー、スタッフとも実感したことでした。

活動の様子（写真など）



○上の写真は 2023年2月5日にオンラインで開催した、プレゼンテーション・朗読講座の様子です。写真は原発事故発生当時、幼子に対する放射能被爆の不安を訴えていた母親であるメンバーが、11年後に成長した我が子の姿を撮ったもので、感慨深い思いが伝わってきます。

○下の写真は 2022年5月10日の東京グループの様子です。各自が撮った写真は、このようにスクリーンに投影して参加者が感想などを話し合います。「声」づくりの時、「声」を投影することもあります。

※本レポートに掲載された写真はパールシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。